

糖尿病治療の最前線

2型糖尿病でも インスリンは枯渇する

高血糖による意識障害で2度も倒れたHさんのケース



担当医 久保 明先生
医学博士・
糖尿病内分泌専門医
東海大学医学部教授
高輪メディカルクリニック院長

患者氏名

H・M様

年齢

48 歳

性別

男性

現病歴

糖尿病・腎症・神経障害・網膜症

今

回は、かなり特殊なケースをご紹介します。働き盛りにも

もかわかわらず、もう25年間も糖尿病を抱えておられるHさんのお話です。

インスリン注射と食事療法で、何とか血糖値をコントロールしていたHさんが、救急車で病院に運び込まれたのは2年前のことでした。非常に高血糖状態となり、意識がなくなってしまうのです。入院時の血糖値は、なんと1178mg/dlもありました。

深刻な事態を招いたきっかけは風邪でした。腎症や神経障害などの合併症がある場合、熱が出ると急激にボーツとなり体が動かなくなってしまう。Hさんは、1日4回のインスリンを打つこともできない状態だったようです。

Hさんのようなタイプは、1.5型糖尿病ともいわれます。2型であっても血糖値のコントロールが悪く、

1型のように急速に進みインスリンの枯渇を招くことがあるためです。インスリンが枯渇している人にとって、風邪などの感染症は強いストレスとなり、血糖値の急上昇を招きます。

Hさんは今年の5月、血糖値が1280mg/dlにまで上がり、再び意識障害を起こして入院されました。通常、血糖値が1000を超えると、意識が戻らない確率が高いといわれています。Hさんの場合、迅速な治療が功を奏したのでしょうか。2度とも無事復帰され、仕事も再開することができました。

Hさんのケースは、血糖値のコントロールがいかにか大切にものを語る典型的な例だといえます。最近では、血糖値が高すぎると認知症になりやすいこともわかっていきます。取り返しのつかない事態にならないためには、やはり早期の治療が一番大事ということです。